

教頭の小部屋

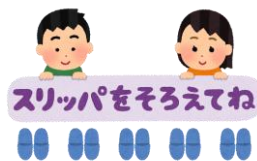
2021.4.23
その1

本年度もよろしく
お願いいたします



全ての行動は自分につながっている

新年度が始まり、校舎内の戸締りをしていると、トイレのスリッパに大きな差があることに気が付いた。2～3年生が使っているトイレは、ほぼスリッパが揃って並べられている。最高学年としての自覚がそうさせるのか、もはや習慣にまで到達しているのか。「さすが上級生！」なのである。1年生も年度当初はスリッパが散乱していたが、学級代表を中心に取り組みだしてからスリッパの様子が激変した。先生たちからの声かけがあったかもしれないが、学年の課題に気づき、自分たちの行動で変化を起こせることは、素晴らしい。



先日、菅公学生服の中島さんを講師に招き、着こなしセミナーを行った。その中で、中島さんは社長との会話を披露してくれた。中島さんが社長に「どんな人と一緒に仕事がしたいと思っておられますか？」と質問したところ、「挨拶ができる人と、当たり前のことの当たり前でできる人」と社長から返ってきたそうだ。要は、社会はそんな人材を求めているということであった。中島さんは、「制服は大人になるための教材でもある」とおっしゃっていたが、スリッパも同じである。次に使う人のことを思い、使い終わったら揃えておく。当たり前のことなのだ。たかがスリッパの話であるが、君たちは今、まさに大人の社会に足を踏み入れていくための勉強をしているのだ。

以前、柔道部の顧問をしているときの県大会。観覧席で走り回る柔道部員たちに、大会本部が注意のアナウンスを入れていた。もちろんトイレのスリッパも散乱。外部コーチなども、入ってはいけない監督席に当然のように座っていた。本来、柔道は勝負だけではなく、その心が大事にされるはず。ましてや『日本柔道』という言葉があるように、柔道人には柔道に携わっていること自体が誇りであるはずだ。大人も子どももマナーが守れない、そんな大会を目の当たりにして、残念な思いになった。

しかし、そのあとトイレに入ったとき、散乱したスリッパを一つ一つきれいに揃え直している柔道部員が目に入った。その男の子以外誰もいなかったのだから、顧問の先生に言われての行動ではない。たぶんその子は、スリッパを見て当たり前のように並べたのだろう。その光景を見て、心が救われたような気がした。ふと気になって、その子の背中のゼッケンを見てみると、その県大会で優勝した中学校の部員だった。結果が出せる学校は、技や勝負以前にもっと大切なことをしっかり学んでいることを知った。

スリッパだけの話ではない。良くも悪くも、全ての行動は自分に繋がっている。「やるときはやる」という言葉もあるが、その時だけのがんばりではもったいない。どうせなら「当たり前でやる」のスイッチを入れて、結果、当たり前が習慣になれば、それは自分の成長なのである。

何事も精一杯取り組んで過ごす1日も、ダラダラと流れていく1日も、同じ1日。時間は皆に平等に与えられている。どうせなら成長につながる時間の使い方をしてほしい。

**ただただトイレのスリッパだけど、
良き習慣や次の人のことを思うその心が、
狭間中学校の良き伝統になったらいいなあ～。**

